

群馬県立富岡特別支援学校 学校評価一覧表(令和5年度版)

(様式)

羅 針 盤			学部・分掌	方 策	点検・評価		達成度	達成状況の分析	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート等				
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えてありますか。	① 授業参観を年3回、小中学部学校参観を年5回、高等部学校公開を年1回、学校評議員会を年2回実施する。	教務部 地域連携部 各学部	○ 学部保護者会や個別面談等で教育方針や教育活動等について説明する。 ○ 入学希望者や学校評議員、地域の関係者等に教育活動について具体的に説明する。	A		A	・ 市役所での児童生徒の作品展や高等部販売会・喫茶サービスなどを実施し、地域の方々に本校の教育活動について知っていただくことができた。	・ 地域の活動に参加し、充実した活動ができた。今後も公民館や地域の行事に積極的に参加し、学校の特色や教育活動を地域の方々に知ってもらう機会になるとよい。	・ 地域での活動を充実させていく。
		② 学校からの通信等で情報を発信し、保護者の80%以上が「学校の様子や生活がよく分かる」と感じている。	各学部 各分掌	○ 学校だより、学年通信等で児童生徒の活躍の様子を速やかに伝えるとともに、送迎時や電話等で、児童生徒の様子について積極的に情報交換をする(週1回程度)。 ○ 学校のWebページを随時更新し、学習の様子を写真や動画などとともに伝える。	A	A	A	・ 学校だよりや学年通信の他、各学部の学習の様子について、Webページを随時更新して伝えることができた。 ・ 保護者限定ページを作成し、修学旅行などの行事の様子をタイムリーに伝えることができた。		・ Webページの充実を図り、より具体的に分かりやすく伝えるとともに、閲覧者が増えるように情報発信をしていく。
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	③ 「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」の内容について、保護者の80%以上が理解し、有効であると感じている。	各学部 教務部	○ 保護者面談や家庭訪問で丁寧に保護者の意見や要望を聞いて、目標や手立てを確認するとともに、評価についても確実に説明する。	A	A	A	・ 学期ごとの目標設定や手立てについて、達成状況を保護者と確認しながら情報を共有し、次学期の指導・支援につなげることができた。		・ 個別的教育支援計画について達成状況を適切に把握し、長期的視野に立った支援・指導を実施できるようにする。 ・ 次年度の引継ぎを確実に行う。
		④ 各種交流及び共同学習について、保護者の80%以上が有効であると感じている。	各学部 交流部	○ 居住地校交流では担当者間の打ち合わせや保護者の説明を丁寧に言い、活動内容の改善・充実を図る。	B	A	A	・ 児童生徒の実態に応じた交流及び共同学習を実施することができた。 ・ 学校間での交流では両校の児童生徒が自然に関わる場面が多く見られ、有意義な活動ができた。	・ 居住地校交流の評価で自己評価が低くなっているのは、教師が実施について課題を感じているのではないか。地域の中学校の校長として協力していきたい。	・ 地域の小中学校や高等学校との交流の充実を図れるよう、計画していく。
II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	⑤ 地域のこども園や小中学校等への訪問相談を年間150件以上、電話・メール相談及び来校相談を30件以上実施している。	地域連携部	○ 相談支援センターの広報紙や小中学校学校参観の案内を地域の教育福祉施設・機関に配付し周知する。 ○ 自校や地域の教職員を対象とした研修会を実施し、専門性の向上を図る。	A	A	A	・ 地域のこども園や小中学校等の関係者からの相談は、1月末までに、巡回相談160件、来校相談14件、電話・メール相談37件だった。	・ 地域の人に情報を発信できるとよい。	・ 教職員や保護者等の相談に対応するとともに、児童生徒の理解や専門性の向上につながる研修会を実施していく。
		III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	各学部	○ 学習形態や学習集団を弾力的に変えながら、児童生徒の実態に合わせて、楽しく学べるように工夫をする。	A	A	A	・ 学部や学年において様々な形態の集団活動を行うことができた。 ・ 学習発表会リハーサル発表や作業学習などを通して学部間の交流を進めることができた。	・ 個に応じた適切な目標や手立て、評価の仕方について、研修を通して理解を深めたり、学部内で検討したする機会を設けるようにする。
5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	⑦ 「個別の指導計画」に基づいた教員の支援・指導について、保護者の80%以上が満足している。		各学部	○ ラーニングマップや段階評価表等を活用し、適切なアセスメントを行う。 ○ 保護者に目標や手立て、評価を分かりやすく具体的に説明する。	A	A	A	・ 国語、算数・数学のラーニングマップを活用して、児童生徒のアセスメントを行った。 ・ 校内研修を通して音楽、体育、図画工作・美術のラーニングマップを作成した。		・ ラーニングマップの有効活用について、研修などを通して検討を継続する。
	⑧ 児童生徒の実態に応じた「個別の指導計画」を年3回作成し、きめ細かに支援・指導する。		各学部 研修部	○ 実態に応じた適切な指導計画を作成するため、計画的にアセスメントを実施する。 ○ 授業改善についての情報提供や意見交換を日常的に行う。	B		B	・ 計画的にアセスメントを実施して、個別の指導計画を作成した。 ・ チームティーチングの学習形態が多く、日常的に情報提供や意見交換ができた。		・ 個に応じた適切な目標や手立て、評価の仕方について、研修を通して理解を深めたり、学部内で検討したりする機会を設けるようにする。
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	⑨ 教員の80%以上がタブレット端末などのICT機器を有効活用し、児童生徒の学習指導を工夫して行っている。	各学部 教務部 (ICT係)	○ ICT機器の有効活用に関する研修や情報提供を行う。	A	B	A	・ 各学部において、日常的にタブレット端末を活用した授業を実施した。		・ ICT機器の有効活用に関する研修をしたり、教員間で情報共有を図る機会を設け、指導力を高めていく。
		⑩ 基本的な生活習慣の定着を図るため、家庭と学校が連携し、学校の支援・指導に対して保護者の80%以上が満足していると感じている。	各学部 保健部	○ 連絡帳、個別面談、電話連絡等において、児童生徒の健康や生活について十分な情報交換を行う。 ○ 保健だよりや学校保健委員会を通して、健康管理についての情報を共有し、意識を高める。	A	A	A	・ 連絡帳、個別面談、電話連絡などにおいて、児童生徒の健康や生活について十分な情報交換を行うことができた。		・ 生活習慣や健康について、児童生徒がもつ課題を明らかにし、保健だよりや学校保健委員会で取り上げる。また、家庭と連携しながら、学校全体で健康管理への意識を高めていく。
	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	⑪ 健康で安全な学習環境を整備し、各種感染症対策に全職員が組織的に取り組んでいる。	各学部 保健部 危機管理部	○ 月に一回、安全点検を実施するとともに、日常的に教室等の学習環境を整える。 ○ 県教委や学校医の指示・指導に従い、感染防止対策を徹底する。	A	A	A	・ 安全点検を実施し、学習環境の整備に努めた。 ・ 県教委や学校医の指示・指導に従い、感染防止対策に取り組んだ。		・ 危機管理の意識を高め、組織的に取り組む。
⑫ 全職員が「危機対応マニュアル」を理解し、避難訓練を年3回、緊急時引き渡し訓練を年1回、緊急搬送訓練(個別)を実施している。		危機管理部	○ 児童生徒への事前予告なしでの訓練や教職員の欠員がある場合での訓練等を行い、課題を見出して、臨機応変に対応できる体制を整える。	A		A	・ 火災、地震、不審者対応の訓練を実施した。引き渡し訓練では、確実に保護者に引き渡すことができた。課題を共有して、次回に活かせるようにした。	・ 大規模災害時には特別支援学校が福祉避難所として機能し、障害をもつ児童生徒・保護者を受け入れる体制が整えられることを望む。	・ 実際の災害時における様々な事態を想定して、訓練を実施する。備蓄品や帰宅困難者が生じた際に必要な物資を確認、準備する。	
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	⑬ 教員の80%以上が、キャリア教育の視点を意識し、将来の就労・社会生活を意識して、児童生徒の長所を伸ばす支援・指導を実践している。	各学部 移行支援部	○ キャリア教育全体計画のもと、基礎的・汎用的能力の育成に学習活動全体を通して取り組む。 ○ 職業教育に関する研修会を行い、キャリア教育に係る教職員の理解を深める。	A	B	A	・ 高等部に新たに進路コーナーを設置し、福祉事業所などの案内を置き、保護者が来校した際に関覧できるようにした。	・ 高等部卒業後の進路について、関心をもっている人も多い。一般に広く知られるようになるとうい。	・ 指導内容を整理し、小学部、中学部、高等部へと続く、系統的な支援を行っている。 ・ キャリア教育の視点を意識し、一貫した指導・支援ができるようにしていく。
		9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	移行支援部	○ 企業関係者から得た情報や助言、卒業生・保護者の体験等を進路だよりで積極的に発信する。 ○ PTA施設見学会やPTA進路講演会を通して、卒業後の進路の選択肢について情報を発信する。	A	A	A	・ 進路だよりや保護者面談などを通じて、進路に関する情報を提供することができた。 ・ PTA施設見学会やPTA進路講演会を実施し、卒業後の進路の選択肢についての情報提供ができた。	・ 高等部卒業後の進路として、地域に受け入れ先が少ない。また、施設の職員を募集しても集まらないようだ。学校公開などの機会を増やし、地域の方からの理解を深められるとうい。	・ 小中学部の保護者のPTA施設見学会の参加を積極的に勧めるなど、情報提供の機会を多く作るようにする。